

「目指せ。ケロン星」

都築 強介

「ゲロゲロリおはようであります。」

僕の一日は大好きな、ケロロ軍曹のあいさつで始まります。僕のあいさつを聞いてみんなは、

「朝から元気だねえ、カエル君。」

と言われます。そう言われるとなんかうれしくなっ
てしまいます。ぼくが初めて、ケロロのマンガを読ん
でまず思ったことは、ケロロ

はまさに僕そのものだったことです。ケロロと僕にはたくさんの共通点がありました。アラモデルにこっ
てる。「むだづかい」。ポストーやフイギニアを部屋中にかざ
っている。などなど。はいありました。それで僕はケ
ロロが好きになりました。学校に行くときもケロロの歌をつ
たいながら学校へ行きます。近所の人で僕がケロロを好
きなことを知らない人はほとんどいません。だれに会っ
ても、

「ケロロ軍曹が好きな子だね。」

と言われます。僕が？そんなに有名なのかと
思うとすごく嬉しいです。嬉しくて日々、ケ
ロロになろうと思つて努力しているのになん
ただけどうしてもなれないことがあります。
それは「そうじ」です。ぼくはそうじが出来
ません。一生けん命かたずけているつもりな
のに、逆にもつと散らかつてしまいます。ケ
ロロも部屋とかはガンブラで汚いけど、自分
でそうじができるからうらやましいです。ぼ
くはいつもママにかたずけてもらつています。

いつもママに、

「そうじが出来るようになったら完ぺきな
ケロロなのにな。」

と言われます。なろうと思つてママに

「食器洗いやらせて」

とはりきつて言うといつも「う言つてやらせ
てくれません。」

「おっ、ちよこちゃんだからだめ。それ
からまず、自分の机をかたずけなさい。」
と言われます。ケロロになろうと思つても、

れもろくにかたづけられないからだめと言われ
ます。でも日々、整理整とんの努力して、
りっぱなケロロ軍曹になるため、これからも
がんばります。そして完ぺきになったらケロ
ロのこきょう「ガマ星雲第58番わく星ケロン
星」にケロロに会いに行きたいです。